

～校長室から～

平間だより（第3号）

読者のみなさん、こんにちは。この平間だよりでは、学校や生徒の様子を紹介したり、私が日ごろ感じていることなどをお伝えしています。

第3号は、本校生徒の様子、ラッシュアワー、今どきの教育の三本立てです。

中庭ハートフルコンサートⅡ

昨年第1号で紹介させていただいた、本校吹奏楽部の中庭コンサートの第2弾です。去る5月2日(金)は気持ちのよい五月晴れにめぐまれ、待望の新生入生6名！を加えた本校吹奏楽学部が、昼休みに恒例の中庭コンサートを開いてくれました。会場の中庭には、生徒、職員あわせて100名を越える応援団が結集。また、校舎の窓からも多くの生徒たちが見守る中、名曲「T A K E F I V E」など3曲を披露。応援団の生徒の一人が手拍子をリードし、うららかな春の日にふさわしい雰囲気になりました。

当然ながら「アンコール！アンコール！」の声がかかりましたが、新生入生が入ったばかりのこの時期にはレパートリーに余裕がなく、アンコールは叶いませんでしたが、最後にみんなで大きな拍手を送りお開きとなりました。「練習では一度も上手くいかなかったK君が本番でデキタンです！」と、顧問の先生が嬉しそうに教えてくれました。また、「(とても多くの観客で、)新生入生たちは大喜びでした」と。

ラッシュアワー

この文章を書いた朝の出来事でした。いつものようにJR南武線に乗り換えるために、小田急線登戸駅の改札口に向かう私の前を二人の小さな制服姿の女の子が追い越して行きました。見ていると、一人の子がさらに前に並んでいる人たちの中に割り込んで、もう一人の子を手招きし、二人が合流。そしたらその直後に、合流した方が駅舎の太い支柱の外側を回った方がさらに前にいけると判断して、二人でさっと支柱を回ってさらにまへの列に割り込んで行きました。学校では電車通学でのマナーなどを指導しているはずで、私が目にした行動が推奨されているはずはありません。そんな中でその子たちは自らの行動が良くないことであることは認識しているし、そのような行動の限界も設定しているようでした。私はこのラッシュアワーの風景をみて、この子たちの自由なところと主体性は健在だし、ラッシュアワー(人生)を生き抜く知恵を学んでいるなあと思いました。

日本では学校でも社会でも、成績の高さと従順さは「良い子」の大きな条件になります。もちろんそれをすべて否定するつもりはありませんが、いわゆる「イエスマン」行動では学ぶ機会を失ってしまいます。

今どきの教育を考える

いま教育の世界では、覚えきれないほどの「〇〇教育」があります。キャリア教育、シチズンシップ教育、金融教育、防災教育、食育、・・・・。中でも筆頭は「キャリア教育」と思います。私の理解では、キャリア教育を一言で表すと「雇用問題対策教育」となります。この雇用問題を語りだすととてもここには収まりそうにありませんので、ここでは、文科省ウェブページで紹介されているキャリア教育への指針に関して、少し私の感想を述べさせていただくことにします。

今、子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められています。

この視点に立って日々の・・・・・・・・・・・・・・・・

この文章(抜粋)は、文科省の「キャリア教育」ページのトップに示されているものです。この言い回しに違和感を持つのは自分だけだろうかとずっと考えています。言葉の上げ足を取るようで気がすすみませんが、子ども(の時)にはそのようなチカラは必要ないと思うのです。こういうチカラが必要だとすれば、そのチカラは大人と呼ばれる年代になり、社会の一員として暮らしていく上で人々がよりよい生活を営むために、一生をかけて求めていくものだと思うからです。そのことは職業に従事しているかいないかに関係がありません。

私がなぜわざわざ「だとすれば」に下線を引いたかと言いますと、文中の「自分らしい」が気になるからです。「自分らしい」とはなにかを問うことは、自分とはなにか、自己とはなにかを問うことであり、難問です。自己の成立と他者とは不可分の関係ですから、自分らしさを一人で考えたり決めたりすることはどうも上手くいきそうにありません。

このような難問を子どもたちに示すこと(この言い回し)に違和感を持つということです。ゆえに、「社会の中で生きていくこと」と「自分らしく生きること」の関係なんぞは到底そう簡便に言い表せないはずです。自分らしい生き方がどういうものなのか私にはいまだに分かりませんし、実現できる見通し也没有ありません。

学校の子どもたちの机には、到底食べきれない教育という給食が置かれています。〇〇教育という副食が、大切な主食への食欲を減退させ、慢性的な消化不良を起こしているように思います。この状況を詰め込み教育と呼ばずなんと言えよいのでしょうか。基本的な栄養素をバランスよく摂取し、よく噛んで食べることが子どもの成長にはなにより大切に思います。